キャラクター名
薄木　雪羽(うすき ゆう)

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル ブラックドッグ	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプショナル	ブラム＝ストーカー	年齢	17	性別	男
覚醒	渇望	衝動	自傷	初期侵食率	33 %
出自	資産家(両親)	経験	長期入院(医者)	邂逅	ビジネス(神代早月)

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	1	0			5
感覚	2	0	0			2
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0			1

HP	31
行動値	5
(非装備時)	5
戦闘移動	10
全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃			ＲＣ	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転：			芸術：	1		知識：			情報：噂話	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
1.2 4.5.6	白兵	4r+2	6	14		対象増やすなら+2　二体まで
1.2 4.5.6.7	白兵	5r+2	6	20		対象増やすなら+2　三体まで　装甲ガード無視

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
業師(スペシャリスト)	P	N		
糸瀬 彰	P 親近感	N 嫉妬		
薄木 朱音	P 遺志	N 偏愛		
和泉 小夜(シナリオロイス)	P 好奇心	N 食傷		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
骨の剣	4	3	マイナー					
効果：命中-1、攻撃力lv+5、ガード値6								
死招きの爪	1	3						
効果：骨の剣に+lv×5								
異形の祭典	1	3	メジャー				シンドローム	
効果：対象をlv+1に増やす、シーン1回まで								
オールレンジ	1	2		至近		白兵		
効果：ダイス+lv								
伸縮腕	1	2		視界				
効果：射程視界に変更、判定ダイス-(3-lv)								
コンセントレイト(エグザイル)	2	2						
効果：C値-lv								
バリアクラッカー	1	4					80%	
効果：ガード無効(カバーリング時も)、装甲値無視-								
栄光の血	2	6	オート	視界	単体		80%	
効果：自身以外の達成値+lv×3、HP-1D、ラウンド1回								
ハイブリーディング	1	6		至近	自身		120%	
効果：使用回数回復、-コスト分HP								
リマインドソウル	1		エンブレム					
効果：バックトラック+1D								
クロックフィールド	1		セットアップ	至近	範囲(選択)			
効果：ラウンド中行動値+5、シナリオlv回								
異形の歩み	★							
効果：								
効果：								

【概要】
華奢で色白な見た目の男子高校生
幼い頃から病弱で学校も休みがちであり、また受け身な姿勢でいることが多く柔らかい印象を与える
だが実際は面倒くさがりなだけであり、妹以外には愛想の欠片も見せない
更にこうと決めたらテコでも動かない頑固さも持ち合わせており、それが発揮される場面は言うまでもない
(妹以外の)人間にほとんど興味がなく、更に周りに期待もしていない為、会話や交流を自分からあまりしたがらない
しかし陰キャなのでとにかく押しには滅法弱い

両親の期待を一身に受ける妹には幸せになって欲しいという思いが昔から強く(自分の身体が思う様にならないのでそれも相俟って)、それが行き過ぎることも

SS後は今までの病弱さはなりを潜め、健康体になったようだ
その為毎日きちんと学校に通うようになり、また戦闘訓練もさせてもらっている為、人並み以上の体力の持ち主になった
陰キャなのは相変わらずのようだが周囲への態度の悪さはかなり軟化しているらしい

死ぬ事やジャーム化する事は許されない、何故なら妹の命を奪って今も生きているから
という強迫観念から何をしてでも生き残りたいと強く願うようになっている
要は生き汚くなった、儚さはどこへ

【二人の秘密について】
人の役にたった経験など無く、まして兄らしい事が出来たこともないので嬉しく思っている
妹がこちらを困ったように覗き込んでくる度、身体の限界がいつかどこかで来る事を知りながら血を与え続けている
何故自分は彼女のあの瞳に弱いのか、とっくに理解はしている